

2013年度 湘南藤沢学会「シンポジウム・研究ネットワークミーティング基金」成果報告書

European Conference on Pattern Language of Programs における  
『パーソナルカルチャー・パターン』の向上に向けた研究発表

総合政策学部 4年 仲田未佳

総合政策学部 3年 鎌田安里紗

【活動日程・開場】

7月10～14日 ドイツ・Kloster Irsee

【活動の目的】

本研究は、パターン・ランゲージの考え方をを用いて個人の“自生的な未来デザイン”を支援することを目的とし、主に高校生・大学生を対象に自己実現の手助けを試みるものです。今回の活動では、European Conference on Pattern Language of Programs (EuroPLoP) という、ドイツで開催されたパターン・ランゲージの国際学会の場で研究成果を発表し、専門家や他の参加者から講評や具体的なアドバイスをもらい、研究成果である『Personal Culture Patterns(パーソナルカルチャー・パターン)』の向上を図りました。

【活動の成果】

今回の学会発表を通して得られた成果は3つあります。

1つは、国際学会という公式な場で、研究の成果を認められたという実績です。本研究は、従来のパターン・ランゲージとは全く異なるテーマ、コンセプト、形式を用いており、その点を世界のパターン・ランゲージの専門家や研究者がどう見るのかが今回の学会参加のポイントでした。結果として、批判的なコメントは無く、パターン・ランゲージにおける新しい試みであるとして好評を得ました。この実績は、“自生的な未来デザイン”の支援ツールとしての『パーソナルカルチャー・パターン』の信頼性を担保し、今後の活動の助けとなるように思います。

次に、学会のプログラムに含まれるライターズ・ワークショップを通して、パターン・ランゲージの専門家や研究者から本研究に対するフィードバックを得られました。本研究の象徴でもあるポエティックな記述形式とイラストが特に高評価でした。また、研究のオーディエンスが明確かつ、それに適したアプローチであることも評価されました。本研究のターゲットである若年層に、より効果的にアプローチするにはどのような方法

が適しているか、本研究の特徴である絵本形式のまとめ方をより良くするためにはイラストをどのように用いればよいか、といった具体的なコメントを得ることができました。さらに、学会には世界13カ国から参加者が集まっており、それぞれの文化的背景をふまえた上でのコメントも得ることができ、有意義なワークショップとなりました。

最後に、パターン・ランゲージのコミュニティにおけるネットワークの構築が成果として挙げられます。学会にはパターン・ランゲージのフロンティアをつくり出している主要メンバーが集まっており、それらの人々と直接関わることで、今後につながるネットワークをつくることができました。また、他の研究に触れることで、自らの研究と比較し、新たな視点を得るきっかけにもなりました。研究を発展させていく上で、このネットワークはプロジェクトの強みになると感じています。

#### 【今後の課題】

研究のドメインをより明確にすること、理論を深めるためのリサーチを行うことが課題として残りました。また、パターンのクオリティを高めるために取り組むべきこともフィードバックを受けてより明確になったので、ORFでのパブリッシュに向けてブラッシュアップに努めます。

さらに、今後の展開としては『パーソナルカルチャー・パターン』を用いて、“自生的な未来デザイン”を支援するイベントを開催していきます。主に高校生から大学生を対象に、パターンを用いたワークショップやゲストを招いての対談を行う予定です。今回の学会発表での成果を活かし、パブリッシュとイベントに向けて、研究に更なる磨きをかけていきます。

#### 【おわりに】

ご指導いただいた井庭先生をはじめ、研究にご協力いただいたインタビューの方々、井庭研究室のメンバー、助成金をいただいた湘南藤沢学会様にこのような機会を手助けいただき大変感謝しております。ありがとうございました。

